

photopos 58

2018.8.2 ～ 2018.8.26

【神秘学ポエジー～風遊戯 第116集】

photo ヴァージョン

photopos1426-1450

神秘学遊戯団

photopos-1426

2018.8.2



驚くころがあれば
世界はひかられてある

どんなことも
いつもはじめて訪れているのに
あたりまえしか見なければ
不思議の花は咲かない

知識はひらくための鍵なのに
ひとを閉じ込める鍵にしちゃいけない
大人は知恵を重ねる器なのに
子どもの知恵を殺すナイフになっちゃいけない

ほら
いつも
はじめての
世界がある
はじめての
じぶんがいる

どんなにちっぽけでも
驚きの扉は
無限に大きな
不思議の世界にひらかれている



※愛媛県総合運動公園にて（コジャノメ）

photopos-1427

2018.8.3



※愛媛県宇和島市津島町・南楽園にて

じぶんの顔が
わからなくなる

そういえば
じぶんの顔なんて
じかに見たことはない

じかに見たはずの
人の顔も
わからなくなることがある

声のほうか
その人だとわかったりするけれど
じぶんの声は
人が聞いている声とは違うらしい

じぶんの考えも
わからなくなる

みんな同じようなことを考えるならば
べつにじぶんが考えたことなんか
じぶんの考えだなんていわなくてもいい

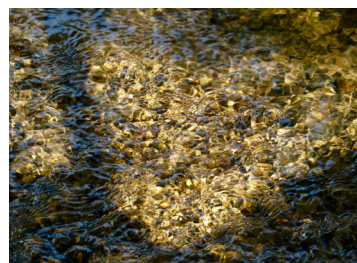
真理はひとつだというならば
それはぼくの考えなどというものでもないのだ

でも
ぼくには顔があり
ぼくなり考えもあり
こうしてぼくなり生きていたりもする

そして
そうしたそのものもまた
ますますわからなくなってくる

photopos-1428

2018.8.4



※高知県日高村・めだか池にて

深く
苦しみの底を割って
変容するものがある

闇のなかから
光の種子が飛び出すように

苦しみは
苦しみのために
闇は
闇のために
あるのではないのだから

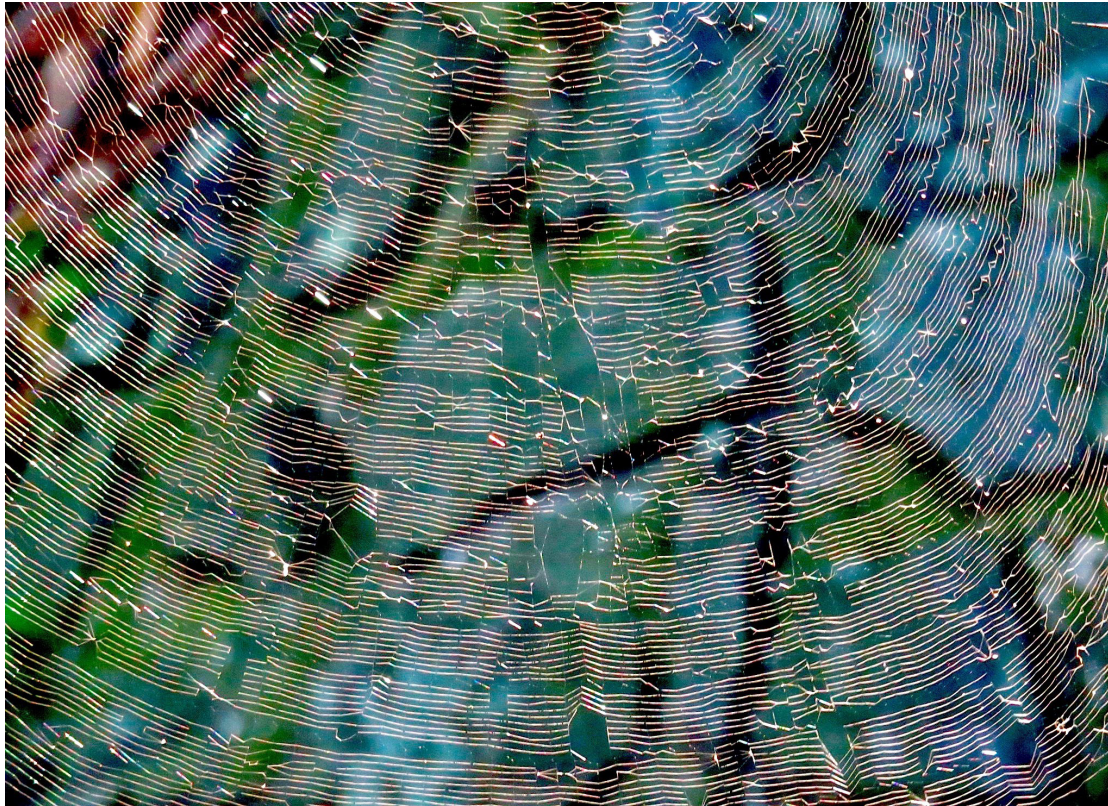
遙か
悲しみの果てを越えて
変容するものがある

涙のなかから
咲きいづるように

悲しみは
悲しみのために
涙は
涙のために
あるのではないのだから

photopos-1429

2018.8.5

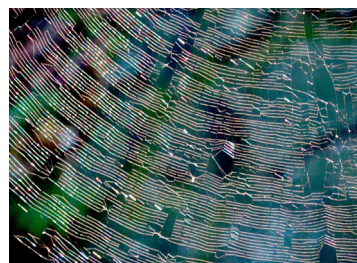
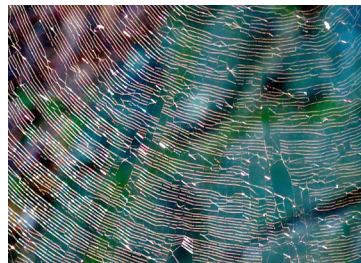
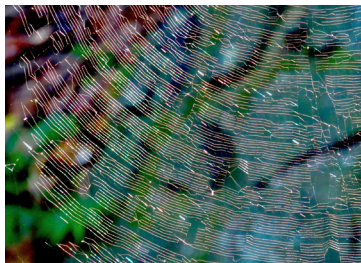


光の網は
生と死の虹で
輝いている

善く生きるならば
朝に生まれ
夕べに死するも
光の遊戯

メメント・モリ
生まれることは
死を引き受けること
善く生きることは
善く死するための道だ

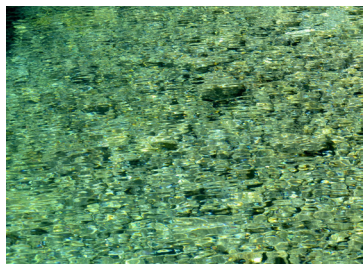
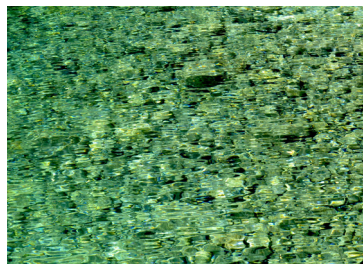
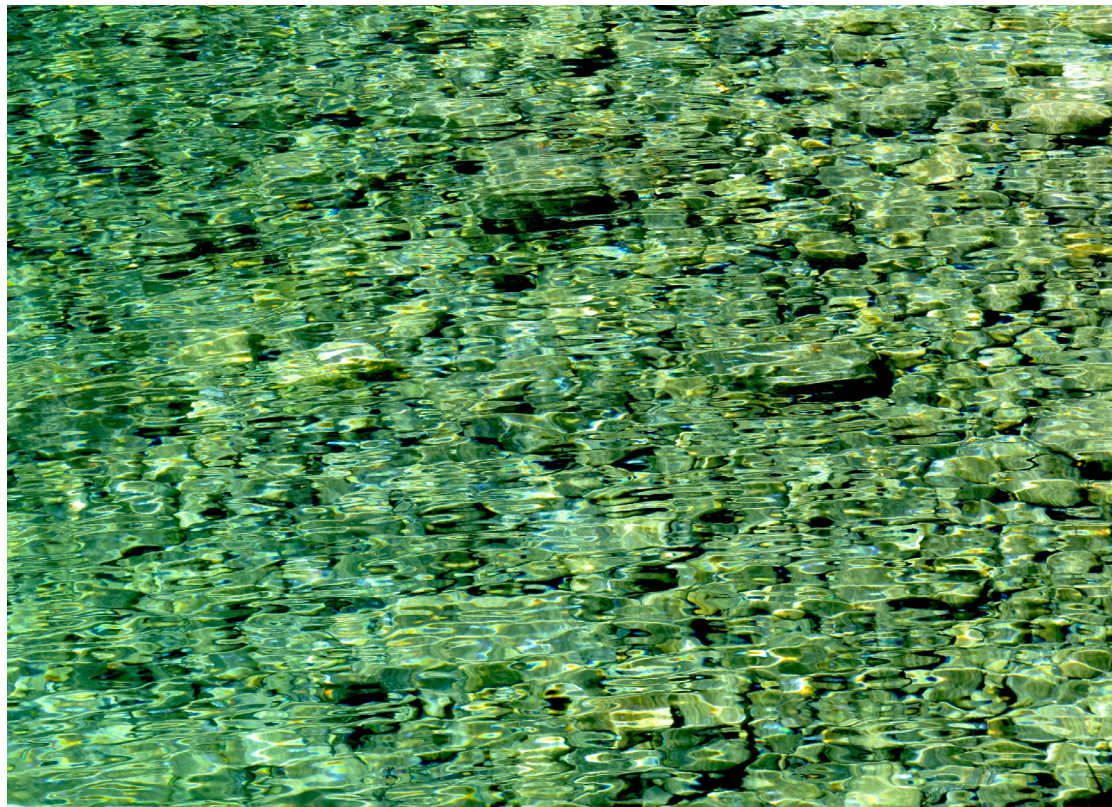
※メメント・モリ (memento mori) : 死を想え



※愛媛県総合運動公園にて

photopos-1430

2018.8.6



※愛媛県久万高原町・面河溪にて

こんな光の
野原にいるときには
忘れていた旋律を
喚びだして
るるら
歌ってゆくのがいい

聞こえてくるのは
心象の碧い細胞から
生まれでる
まだ見ぬ夢のことば

それとも
深い水の淵で
眠りつづけていた
龍の溜息のような歌

ちっぽけな現実を
守っているがいねんなんか
ここでは役に立ちやしないから
ぼくはただ
光のなかをゆれながら
るるら
歌ってゆくのだ

photopos-1431

2018.8.7

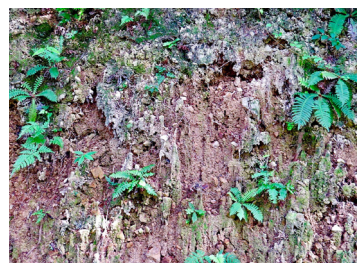
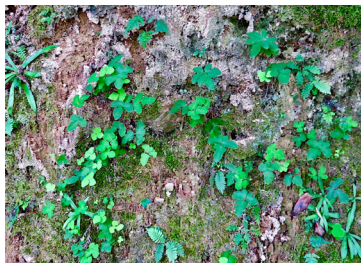


大地の星が
瞬いているよ
思い思いに
歌いながら

心の星が
瞬いているよ
聖なる祈りを
捧げながら

言の葉の星が
瞬いているよ
自由の声を
交わしながら

星と星は
不思議の曼荼羅を描き
天空の星座と呼応し
神秘的時空でむすばれながら



※愛媛県伊予市・大谷池にて

photopos-1432

2018.8.8



どこにでも
永遠は見つかる

必要なのは
自分を見る
永遠の目だ

記憶の景色は
ただそれだけの
景色に過ぎないけれど
そこには
永遠の記憶が
たしかに刻まれている

夏の光
流れる水音
きまぐれな風
静かにゆれる木陰
戯れる声たち

永遠の目さえあれば
どんな記憶も
失われることなどないのだ



※愛媛県伊予郡砥部町にて

photopos-1433

2018.8.9



ほんとうが
見えないときは
二重写しをうつろう

心が
見つからないときは
心の行き先もないから
なにもない心で
なにも決めずに遊ぶ

じぶんが
迷子のときは
じぶんがだれかも
わからないから
だれでもない顔をして
歌いながら歩く

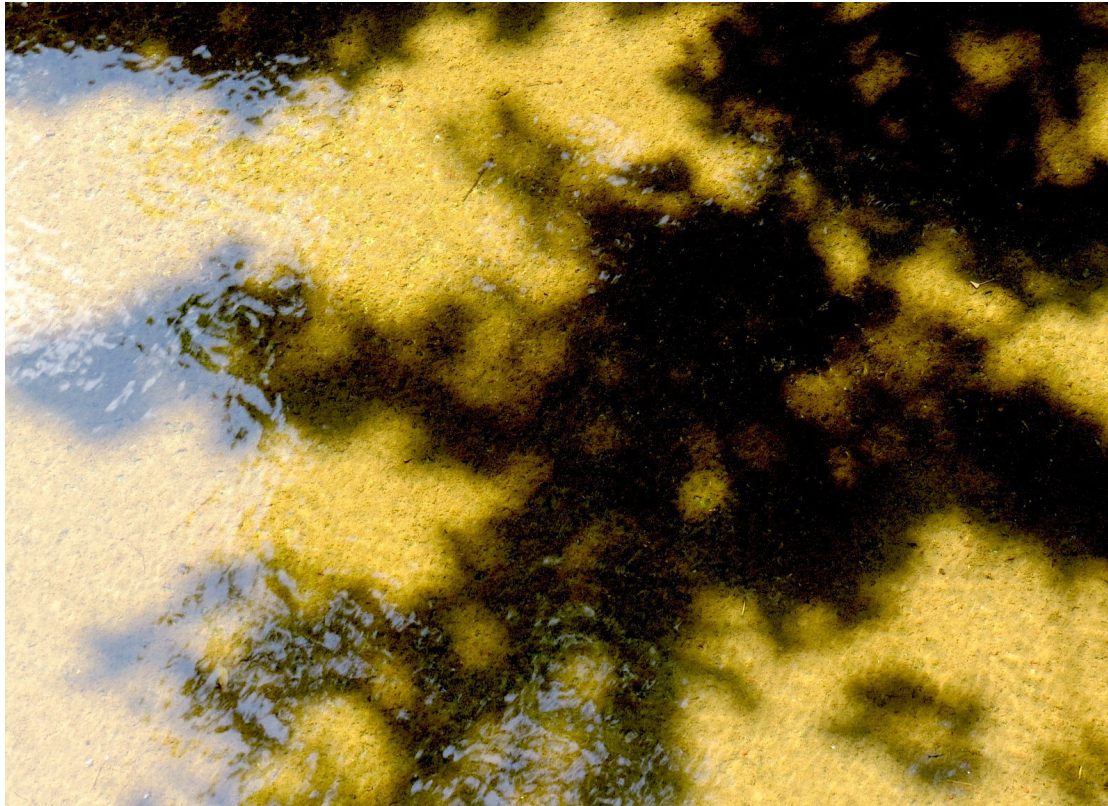
世界は
どこから生まれたか
わからないから
じぶんは
どこから生まれたか
わからないから
迷子のままで自由をゆれる



※愛媛県伊予市・大谷池にて

photopos-1434

2018.8.10



見ているのはだれ
見られているのはだれ

光は動き
影は踊る

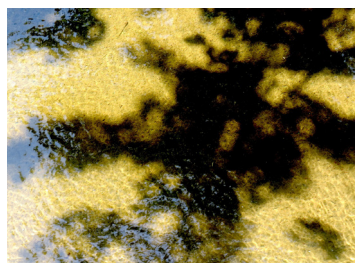
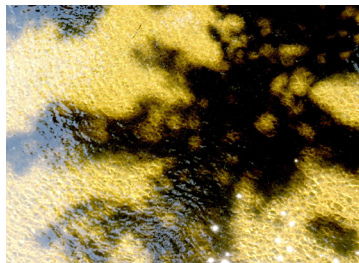
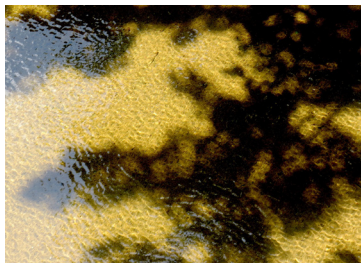
言の葉はどこから
言の葉はどこへ

語りは記され
物語は踊る

世界のどこかに
私という現象は現れ

生と死は戯れ
刹那と永遠は交錯し

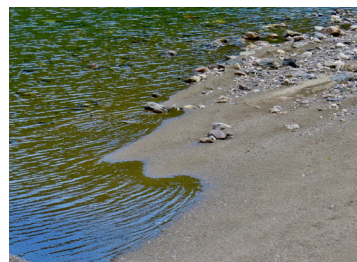
私を見ているのはだれ
見られている私はだれ



※高知県日高村・めだか池にて

photopos-1435

2018.8.11



※高知県吾川郡いの町・名越屋沈下橋にて

ああわたしは
じぶんのためだけに
いきているのだろうか
ひとのためには
いきられないのだろうか

じぶんのためとは
なんのためだろうか
ひとのためとは
なんのためだろうか

じぶんのなかにも
ひとはいる
そのひとは
なにをのぞんでいるのだろう

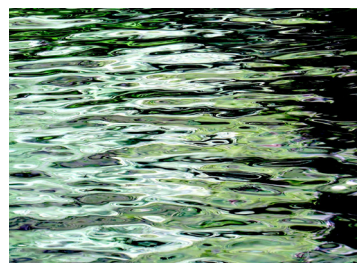
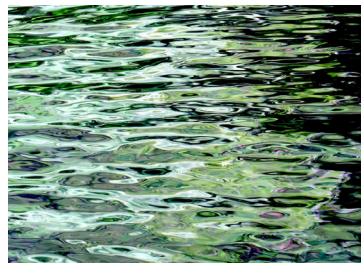
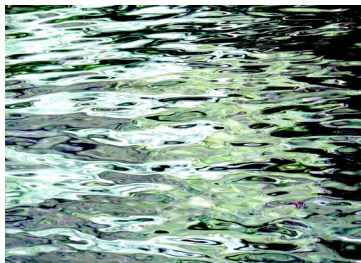
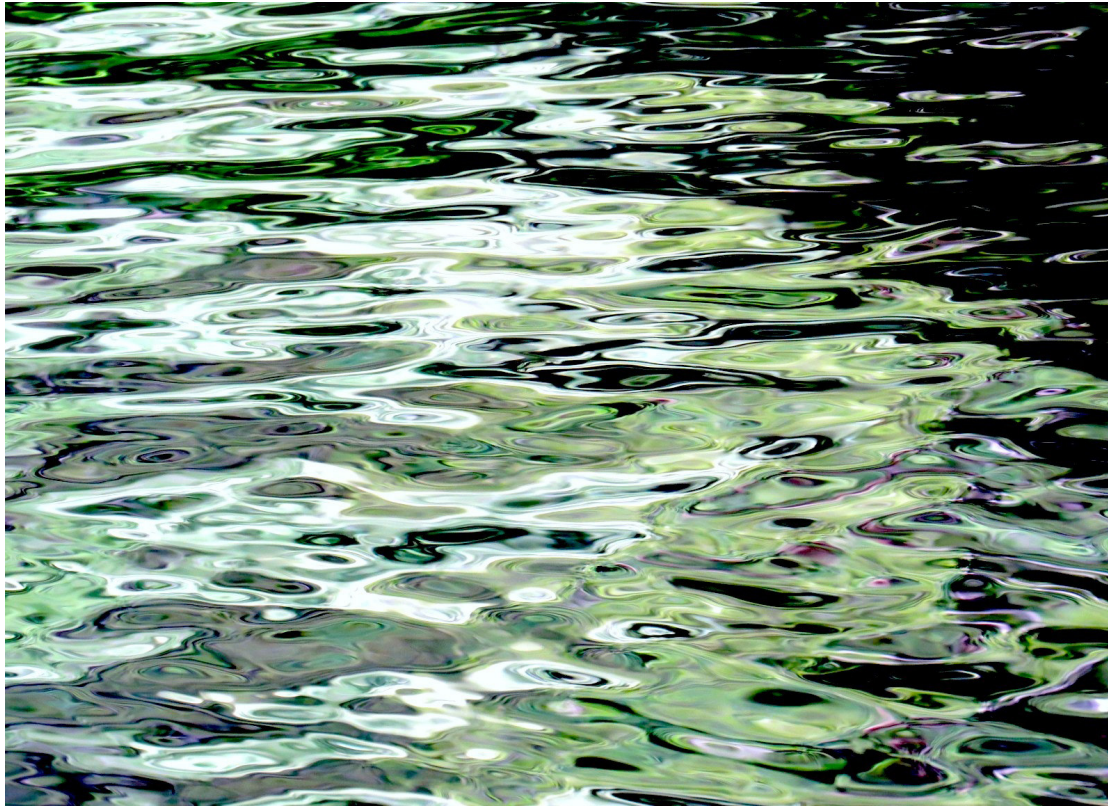
そのひとも
じぶんのためにいきようとし
ひとのためにも生きられれば
そうおもっているのだろうか

ひとのためとおもって
なにかをするとき
そこにもわたしはいる
わたしはひとのためにする
そうおもっている
けれどそれも
わたしのためでもあるのだろう

わたしとひとは
ねじれむすばれときにはなれ
ぐるぐるとまわりつづけるばかりだ

photopos-1436

2018.8.12



※愛媛県久万高原町・面河溪にて

好きや嫌い
快や不快の
心の模様

その模様は
どこから
生まれてくるのか

その色や形は
言葉のように
現れてくるけれど

その源を
辿ることは
むずかしい

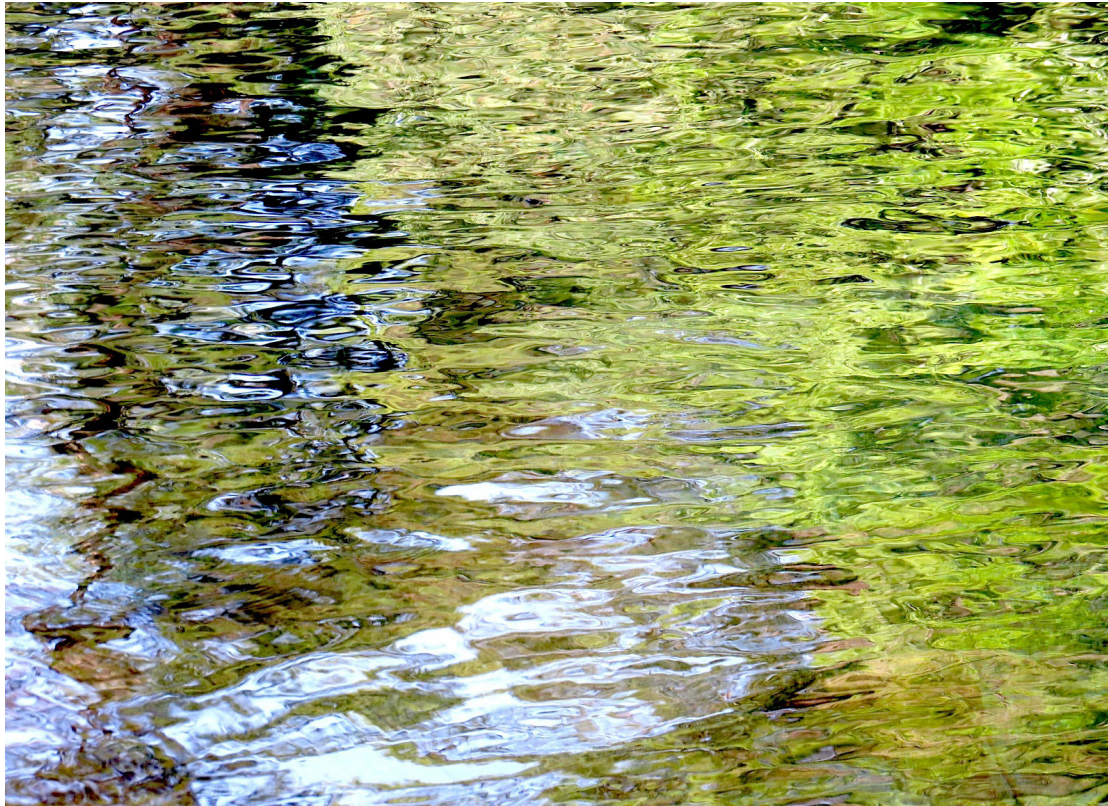
苦から逃れる道が
示されてきたように
その道もまた開かれてゆくだろうか

じぶんがじぶんであって
じぶんではない
そんなカオスに向き合うのだ

心のカオスの不思議を
新たなコスモスへと
たしかに導くために

photopos-1437

2018.8.13

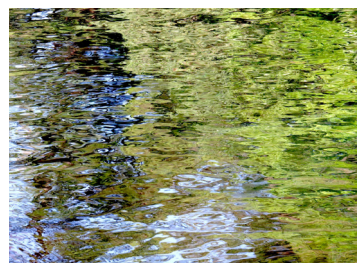
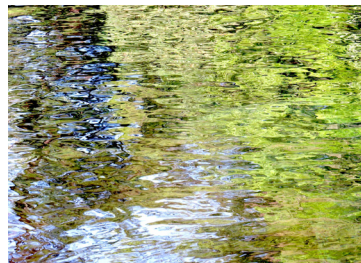
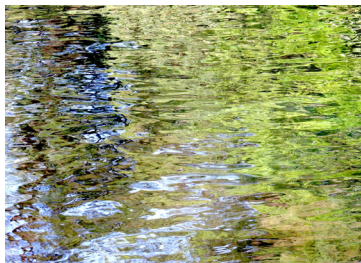


暑き日に
溶ける心は
静かに揺れる
水の旋律に委ねられ

情に棹さし
流される心は
情の河をくだり
大海へとみずからを注ぎ

知に働き
角が立つ心は
角と角の間に張られた
弦の響きに耳を澄ませ

時に追われ
なくした心は
天空に広がる
夜の星座にみずからを映し



※愛媛県久万高原町・面河溪にて

photopos-1438

2018.8.14



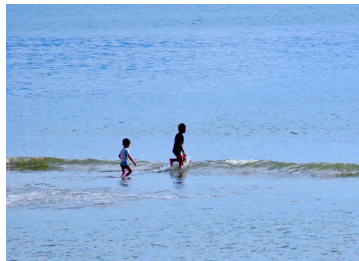
さあ行くんだ
生きることは
こわくない

飛ぶんだ
ためらうことなく
飛んでみるんだ

両手をひろげ
光をあびながら
大きく風を受けて

さあ生きるんだ
死ぬことさえも
こわくない

彼方にひろがる
世界の果てに待つ
生と死の環をめぐれ



※愛媛県松山市・重信川河口にて

photopos-1439

2018.8.15



森を歩けば
茸にあたる

名は知らない
食べられるかどうか不明である

色も形も面妖であるが
茸にとって人の評価など
我関せずには違いない

好奇心は勝つが
採集の意図はもたず
もっぱら観察を事とする

我が面妖な想像力は
異形の姿に遇うと俄に活気づき
茸の怪談など紡ぎだそうとする

街を歩くときにも
異形に遭遇することは多い

好奇心は勝つが
対面の意図はもたず
もっぱら観察を事とする

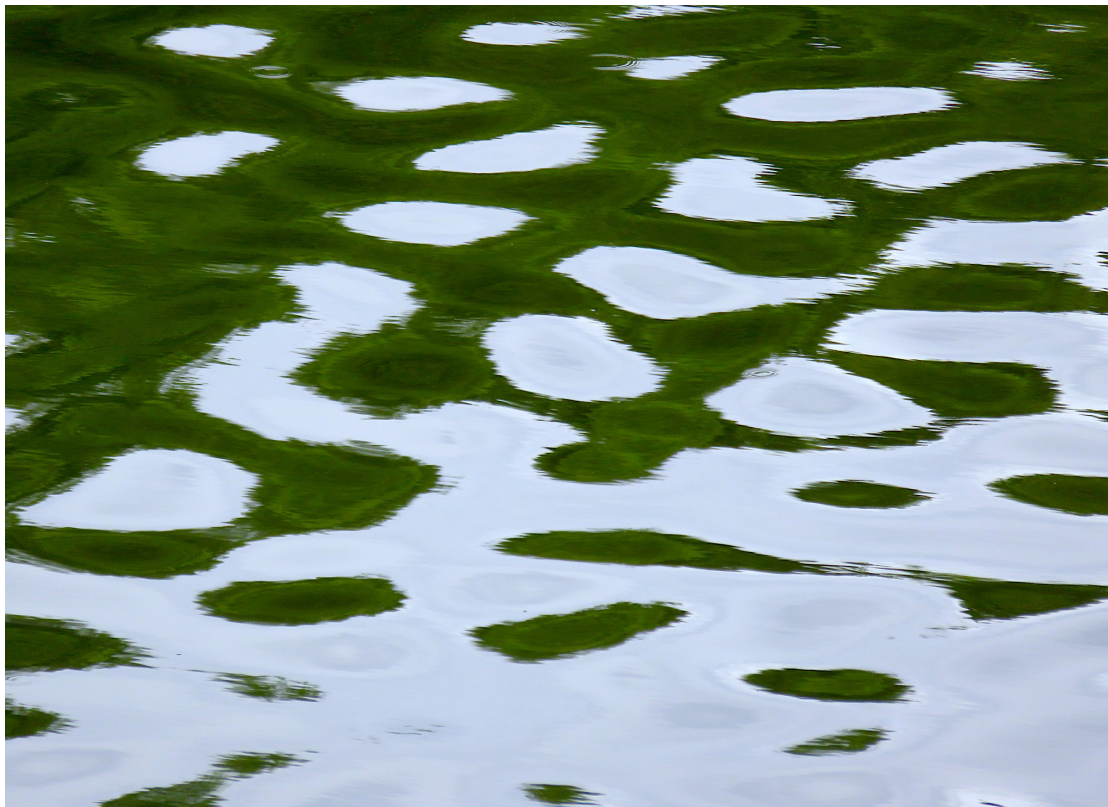
我が面妖な想像力は飛翔するが
想像の範囲に留めることにする
しばしば森よりも危険だからである



※愛媛県松山市・高縄山山頂にて

photopos-1440

2018.8.16



わたしが見るとき
わたしは見られている

わたしが聴くとき
わたしは聴かれている

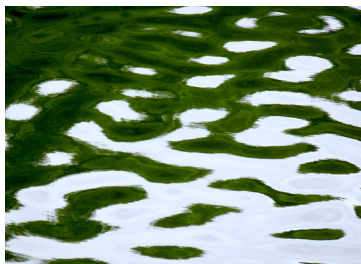
わたしが触れるとき
わたしは触れられている

わたしが思うとき
わたしは思われている

わたしが愛するとき
わたしは愛されている

わたしが生み出すとき
わたしは生み出されている

わたしと世界は
分かれてみえるけれど
わたしと世界はほんとうは
不二の不思議を生きている



※愛媛県総合運動公園にて

photopos-1441

2018.8.17



時は
やさしく
遊んでいました

水は
ゆったり
流れていました

足は
しずかに
はずんでいました

声は
うれしく
歌っていました

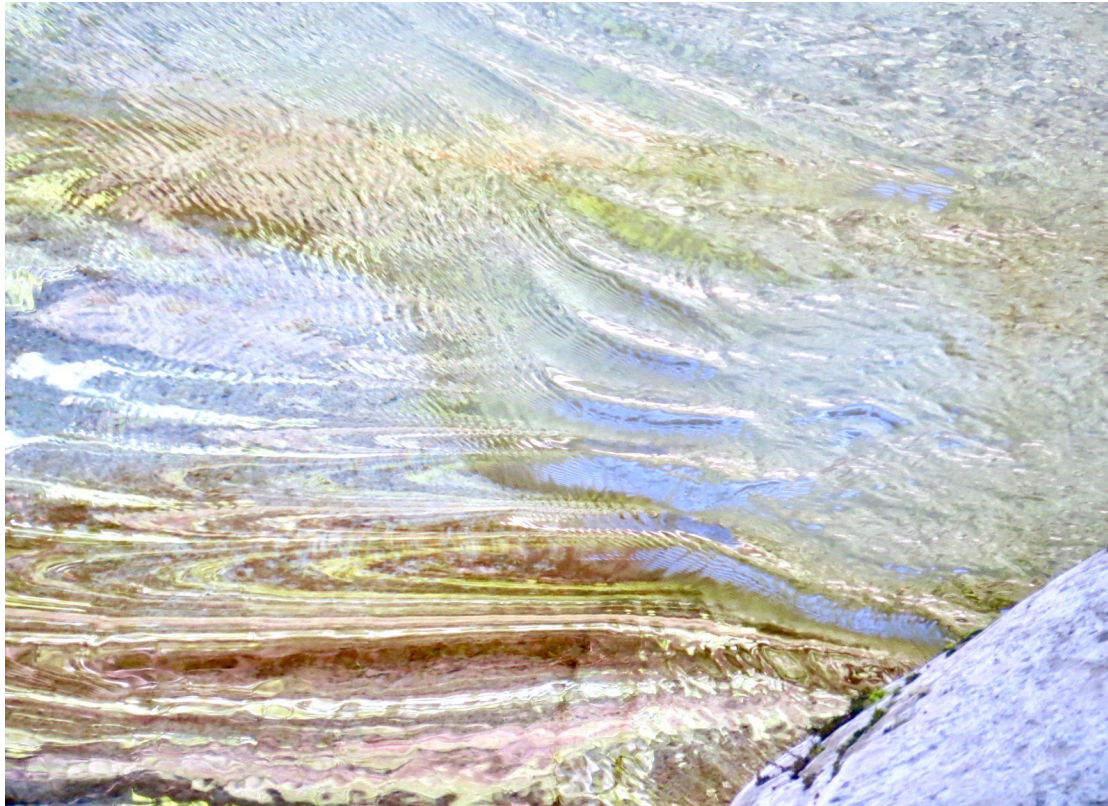
心は
おだやかに
むすばれてゆきました



※愛媛県松山市・重信川河口にて

photopos-1442

2018.8.18

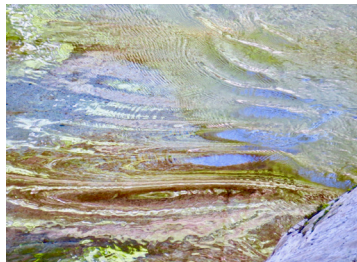
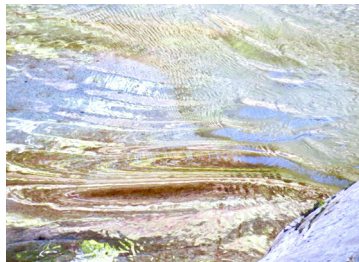
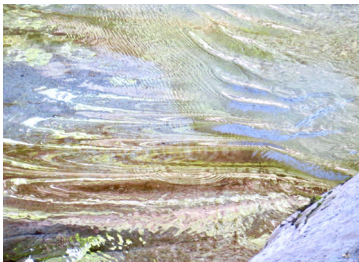


流れはいつも新しい
同じ流れは一度だけ
淀みさえも変わり続けている

世界はいつも新しい
同じ世界はどこにもない
変わりながら紡がれている

時間はいつも新しい
同じ時間は存在しない
永遠さえも深まり続けている

経験はいつも新しい
同じ経験はひとつもない
私は私でないものと呼吸している



※愛媛県久万高原町・面河溪にて

photopos-1443

2018.8.19



なぜ歩けないのか
何に縛られているのだ

縛るものは己の心だ
己が己を縛る源を觀よ

なぜ超えられないのか
結界はどこにあるのだ

境域で待つのは己の影だ
光ゆえに生まれる影を觀よ



※愛媛県松山市・重信川河口にて

photopos-1444

2018.8.20



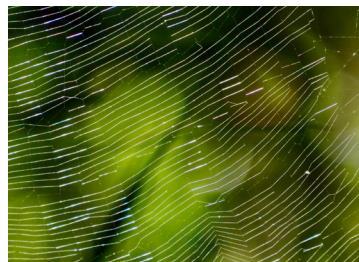
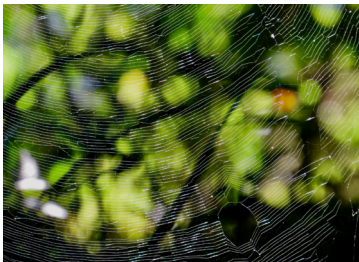
光が糸になるとき
糸は形を紡いでゆく

光が色になるとき
色は季節を映してゆく

光が音になるとき
音は万象を奏でてゆく

光が心になるとき
心は生を燦めかせる

光が言葉になるとき
言葉は世界を新生させる



※愛媛県松山市北条のため池にて

photopos-1445

2018.8.21

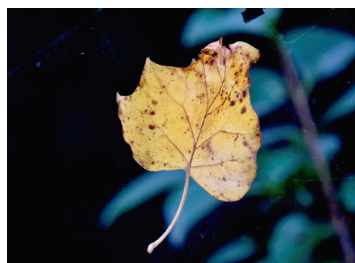
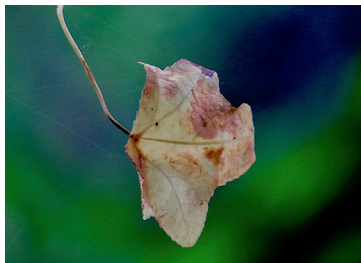


見えない糸に
縛られているのに
気づけないでいる

けれど縛っているのは
じぶんのなかから
吐き出した糸なのだ

いろんな糸を吐き出しながら
じぶんでじぶんを
縛りつづけている

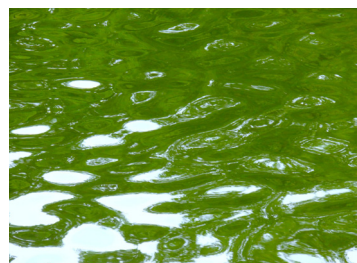
縛られているのに気づいて
自由になろうとしても
縛るじぶんには気づけないままに



※愛媛県総合運動公園にて

photopos-1446

2018.8.22



不思議の世界に
生まれてきたよ

からだは
どこから
やってきた

からだは
なにから
できている

不思議の世界で
笑ったり泣いたり

こころは
どこから
やってきた

こころは
なにから
できている

不思議の世界で
話したり歌ったり

ことばは
どこから
やってきた

ことばは
なにから
できている

※愛媛県総合運動公園にて

photopos-1447

2018.8.23



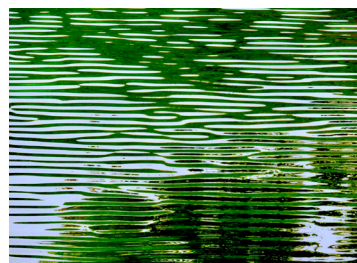
心はときどき
じぶんをもてあまして
じぶんにもわからないものを
描いてしまうけれど

ゆれるときには
ゆれるままに

体はときどき
じぶんをもてあまして
じぶんにもわからない動きで
踊ってしまうけれど

はげしいときには
はげしいままに

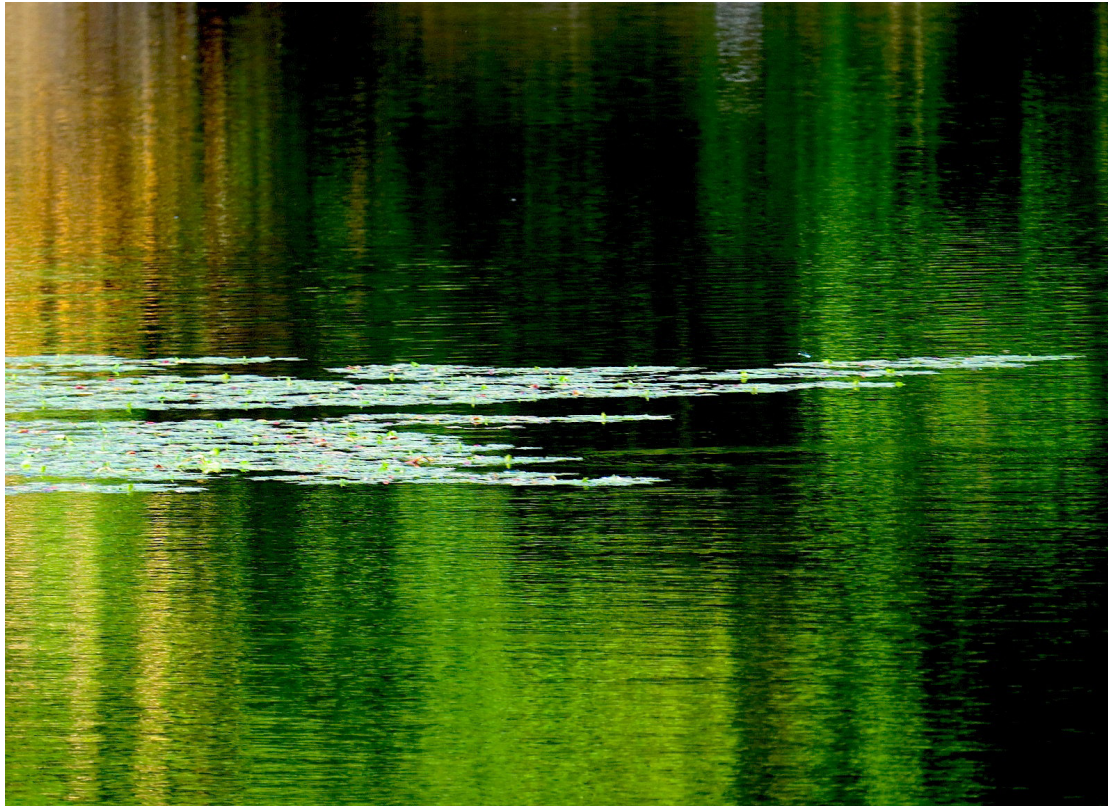
やがて静まり
鏡に映る姿を
みつめる勇気さえあれば



※愛媛県総合運動公園にて

photopos-1448

2018.8.24



季節のめぐりのなかで
変わりゆくものたち

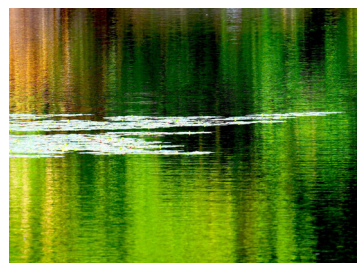
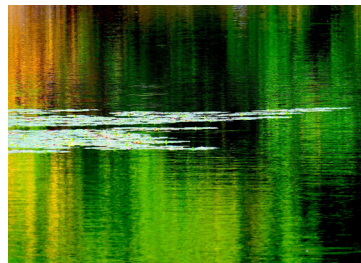
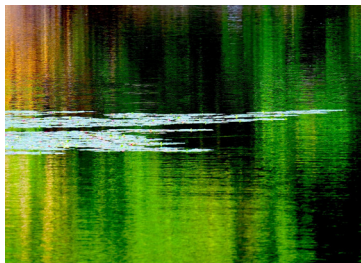
光は戯れ
水は映し

心を過ぎゆき
消えてゆく記憶たち

ムネモシュネは隠れ
夢たちは遊び

うつろいながら
消えてゆくものたち

ピュシスは失われ
時の神々は佇み



※愛媛県松山市北条のため池にて

photopos-1449

2018.8.25



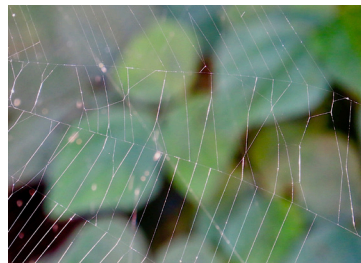
矛盾のないところでは
魂はどこへも羽ばたけない

生と死の矛盾がなければ
体験は経験にはなれない

時間と空間の矛盾がなければ
いまとここを生きられない

わたしとあなたの矛盾がなければ
愛はどこにも見つからない

知ることと信じることの矛盾がなければ
叡智はその深みへと旅立てない



※愛媛県北条市の海岸にて

photopos-1450

2018.8.26



問うとき
ひとは
無限の世界の住人となる

問うとき
ひとは
それまでともにあった世界を失い
失うことで道を見つけるのだ

答えるとき
ひとは
囚われの世界の住人となる

答えるとき
ひとは
その先に続く道を得て
得ることで見えない道を失うのだ



※愛媛県松山市・重信川河口にて